

旭労災病院ニュース

病院情報誌 第 10 号 平成 18 年 9 月 1 日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8585

尾張旭市平子町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

繰り返す発熱

小児科部長 安藤 郁子



乳幼児でちよくちよく発熱する子を診療することは決して珍しいことではありません。母体内から移行した免疫がなくなる生後6ヶ月以降から子供は本格的な「病気デビュー」を始めます。特に集団保育されている子などは感染の機会が多いため1歳前から次々と病原体にまみれてよくお熱を出します。「うちの子どうしてこんなに熱でるの？」と悲しげなお母さんに対し「大丈夫！今一杯病気すれば3歳ころには丈夫になるよ、免疫強化訓練中だからがんばって！！」といつも励ましています。確かに乳児期によく熱を出した子は3歳くらいから丈夫になるし、乳児期に手間のかからなかった子は3歳頃から集団に入ってみんなの病原体をもらってきてよくお熱を出すようです。しかしそんな子供達も就学時頃までには通常の感染症に負けない免疫を獲得するようです。しかしそんな「よく熱を出す子」の中にPFAPA症候群なるものがあるというのを最近知りました。PFAPAとはPeriodic Fever, Aphthous stonatitis, Pharyngitis, Adenitisの頭文字で、5歳未満に発症する、発熱と口内炎、咽頭炎、頸部リンパ節炎のいずれか一つを周期的に繰り返す疾患です。当院の症例はいずれも男児で、3～4歳頃から1～3ヶ月毎に発熱と併せて扁桃腺炎・頸部リンパ節炎・口内炎などを繰り返し、白血球数増加、CRP高値となるので化膿性扁桃腺炎として入院し抗生剤の点滴で治療開始するのですが、治るのに7～10日はかかります。抗生剤投与前に鼻咽頭培養するのですが起病菌は検出されず、入院する度に抗生剤の選択に頭を悩ませる状態でした。エピソードの間は全く元気で発育も良好です。鑑別疾患としては周期性好中球減少症・慢性活動性EB感染症などがありますが、当症例ではそれらの検査所見も異常を認めませんでした。この疾患は予後良好で数年の経過で自然軽快するらしく唯一、扁桃摘出術で発熱が減少消失するという報告があります。この疾患を知ってからは熱が出てもジタバタせずに無治療で経過見ましたが自然に治って行きました。最近では2症例が有熱期間2～3日となりこのまま軽快してくれればと願っています。先生方の患者様で繰り返す発熱でお困りの症例がありましたらご紹介ください。

リハビリテーション科・整形外科医として

リハビリテーション科

部長 櫻木 哲太郎



今年4月、愛知医科大学からリハビリテーション科部長として整形外科に勤務しています。勤務してから数カ月が経過し、ようやく少し仕事にも慣れてきた頃ですが、整形外科はこの7月より4人から3人と常勤医が減り、最近では外来、回診、手術と忙しく地域連携の先生方には色々と御迷惑をかけていることと思います。

当科では主に外傷を中心に診療を行っていますが、慢性疾患である関節リウマチ、変形性関節症の治療や人工関節手術も積極的に大学からドクターに来てもらい行っております。

また、平均寿命が延びたことにより高齢者が増え、骨折、骨粗鬆症の患者が増加しております。当科ではそのような骨粗鬆の患者には積極的に治療し、疼痛軽減、骨折予防を行い、高齢者の骨折には患者さんのADLの向上をめざして最適な治療を行っております。

今後、当科でも医療知識を高め、労災、事故の外傷、高齢者の慢性疾患、小児の骨折、そのほか色々な疾患がありますが献身的に診療したいと思いますので、整形外科を今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

